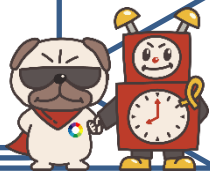


# 明中瓦版

小中一貫校 彩和学園  
富田林市立明治池中学校

令和8年年度末号 校長 堤 周作



## 奇跡の大逆転！

イタリア・ミラノ・コルティナ冬季オリンピックで、日本代表選手の様々な名場面がありました。その中でも目に焼き付き、伝説として長く残ると思われるのは、フィギュア・ペア“りくりゅう”の奇跡の大逆転でしょう。

前日のショートプログラム（SP）で三浦璃来、木原龍一組は得意のリフトを失敗し5位。木原が右手で三浦を支えるはずが、手の位置がずれ、落としてしまった。33歳の木原は深く落ち込み、「もう終わってしまった」と悔しくてずっと泣いていた。その日の夜、8時間程は横になっていたが、寝た気がしなかった。翌日のフリー当日の練習は本番4時間前、この段階でも涙はあふれて止まらなかった。一方、24歳の三浦は「ノミスだったら可能性がある」とずっと思い、折れることはなかった。「まだ終わっていない。積み重ねてきたことがあるから、絶対にできる」と木原を励ました。睡眠不足で身体が動かず頭が覚めず、気持ちの余裕がなかった木原は、三浦の励ましの言葉が入った状態で、小1時間仮眠をとった。昼寝から帰ってきた木原はよみがえっていた。「ここでオリンピックを諦めていいわけがない。絶対自分たちで攻め切るんだ！」。

そして本番、SPの反省を踏まえ、慎重に滑った。リフトの時いつも以上に、三浦はギュッと木原の手を握った。結果、世界歴代最高得点。奇跡の大逆転金メダル。木原は力を出し尽くし、低血糖で足元がふらついた。

遡ること7年前、26歳の木原は前のペアを解消し、フィギュアスケートをやめようとしていた。当時、アルバイトをしていた木原に、日本スケート連盟のペアトライアルを手伝いに来ないかと誘いがあった。木原が3時間程の手伝いを終え、自動ドアを出ようとした時、走ってくる人がいた。カナダ出身のマルコットコーチだ。今のペアと組み続けるか悩んでいた三浦と、「1時間だけ滑ってみないか？」。木原はうなずき、三浦と初めてリンクに立った。そして、三浦を頭上に放り上げるツイストリフトを試みると、回転をかけずに投げた三浦の体があまりに高く上がった。「雷が落ちるってこういうことなんだ」、スケートから離れかけていた木原の心が、もう一度氷上に引き戻された瞬間、「りくりゅう」誕生の瞬間だった。それから苦節7年、2人がスケートを続けた先に、最高の景色が広がっていた。（2/18朝日新聞参照、一部引用）

### 【生徒のみんなに伝えたい事】

『諦めないで粘り強く努力することの尊さ』『過去は変えられない。コントロールできるのは未来に起きること（マルコットコーチ）』『チャンス（出会い）はどこに転がっているかわからない。そのチャンスを掴み取るタイミングを逃さないのもその人の実力』『2人ともスケートに真摯に正対していたからこそ、コーチが互いを紹介した。誠実な人は誰かが見てくれている、運を引き寄せる』『“りくりゅう”の場面を見る度に、中学生時代の自分を思い出すでしょう。4年後の冬季オリンピック“フランスアルプスオリンピック2030”の開催時には、どんな自分になっているかな？ その頃の自分を誇れるよう、これからもコツコツと努力していこう！』

### 【保護者様へ】

3/13(金) 36期生の振る舞いや涙々の合唱等全て、素晴らしい卒業式でした。前日のお別れ会では、1,2年生も役者揃いで、爆笑アリ感謝アリのダンス&スタンツ&合唱で、3年生を楽しく送りました！明中最高♡

子どもたちの人生の大切な一時期、中学校としての役割を最大限果たしたいと考えていますが、至らぬ点もあったかと思えます。この1年間の皆様のご支援に感謝申し上げますとともに、来年度も子どもたちの健やかな成長に向けて、ご協力の程、どうぞよろしくお願い致します。